



MON Nara 通信



Numéro 11

Association Franco-Japonaise de Nara 奈良日仏協会

DÉCEMBRE 2021 12月

これからの催しご案内

第 149 回フランス・アラカルト 「ドイツとフランスに暮らしてみて」

今回は、ドイツのハンブルクに 11 年、フランスのコルマルに 3 年間お住まいになった会員の辻みち代さんから、お隣同士の国であるドイツとフランスのお国ぶりの違いなどについて、思い出話をまじえながら、お話しいたします。

★日時:2022 年 1 月 22 日(土)15:00~16:50 ★場所:生駒市セイセイビル 4 階 402 会議室

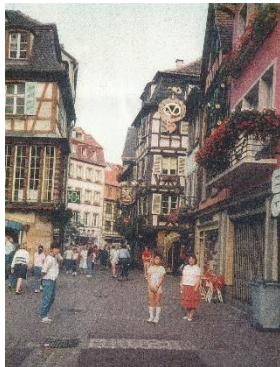
★講師:辻みち代 ★参加費:会員 500 円、一般 1000 円。★参加申込:sugitani@kcn.jp TEL090-6322-0672(杉谷)

★辻みち代さんからのメッセージ: お隣は他人の始まり?

2 度目のドイツ滞在も 4 年を過ぎた 1989 年、夫に突然のアルザスへの転勤辞令が出ました。車でひたすら南下すること 800 キロ、到着したコルマルは明るく可愛らしい街並みの町でした。ハンブルクのフランス語教室では、「アルザスならドイツ語が通じるよ!」と言われてましたが、ドイツ語を話せたのは同じ建物に住む 80 代のご夫婦だけで、パン屋さんで croissant の発音が分かってもらえず、「これではあ



ハンブルク アルスター湖畔にて(1977 年)



コルマルの町並み(1991 年)

かん」と一念発起。仏国鉄 SNCF のたばこ臭い車両に乗り、ストラスブール大学の「外国人のためのフランス語」の授業に 2 年間通いました。この結果、町の成人学級で日本語を教えたり、自動車学校にも通ったりして、次第にフランス人との交流も増えました。

アルザスはドイツ領だった時代もあり、ドイツ人と生活ぶりはあまり変わらないかと思っていたのに、例えば食事にかかる時間や情熱の違いや、車の修理工場の対応の違いなど、全然違うことが多く、お隣なのになぜこんなに違うのだろう?と戸惑いと驚きの連続でした。

合計 14 年の欧州での生活を終えて 1992 年に帰国。生駒に住みドイツ語通訳やガイドの仕事を行っています。「いこま国際音楽祭」ではドイツの音楽家たちの通訳を務め、また毎年 12 月にはチャリティーコンサートの企画・司会を担当しています。今回はドイツとフランスのお国ぶりや国民性の違いについてのお話や、「ドイツ語ってどんな言葉?」ということにも触れてみたいと思います。



ハンブルクの冬(1985 年)

コラム ドイツとフランスとドーデの「最後の授業」

前回のフランス・アラカルトで、濱さんがアルザス地方の話がされたとき、ドーデの「最後の授業」に触れられ、質疑での三野会長のコメントが面白かったので、その後調べたことも含め紹介しておきます。ある程度の年齢の人なら、教科書に「最後の授業」が載っていたのを覚えていると思います。教えられた当時は、ドイツとの戦争に負け母国語のフランス語を奪われた少年たちに同情したが、真相はそう単純なものではなかったと、お二人とも口をそろえておっしゃるのです。この話は、フランスの作家アルフォンス・ドーデがパリの新聞に発表した短篇で、フランスがアルザス・ロレーヌ地方を割譲した 1871 年 5 月のちょうど 1 年後に発表されたもの。ドーデは愛国主義者だったので、フランス人の愛国心を鼓舞するプロパガンダとして書いたものだったということです。濱さんは、その頃アルザスの人は主にアルザス語を喋り、子どもたちも学校でフランス語を外国語のように学んでいた筈だと指摘していました。フランス語を大事にせよと言った先生は、逆に、アルザスの人々にフランス語を押しつけようとしていたのです。戦前から日本の教科書に載っていたこの話も、アルザスでの複雑な事情が徐々に分かってきたので、1986 年を最後に教科書から消えてしまったということです。(編集部)

2022 年度 総会のお知らせ

奈良日仏協会の 2022 年度総会を下記のとおり開催する予定です。残念ながら、コロナの状況が見通せないため、立食による懇親会は中止とすることが決まりました。代わりに総会のあと、ケーキとお茶とともにみんなで歓談する時間を設けました。日ごろの協会の活動へのご感想や、ご希望を話し合うよい機会ですので、ぜひご参加ください。

1 月下旬に改めてご案内しますので、ご予約の程よろしくお願いたします。

♣日時:2022 年 2 月 11 日(金・祝)15:00～ ♣会場:野菜ダイニング「菜宴」(奈良市小西町 19 マリアテラスビル 2F)



今後の活動

☆来年度の活動として、美術クラブ、フランス・アラカルト、シネクラブの企画を鋭意進めておりますので、ご期待ください。

活動記録

☆10 月 9 日(土):第 148 回フランス・アラカルト「アルザス、仏独の狭間に輝く特異な地域」講師:濱恵介

《2021 年度第 5 回理事会報告》…事務局

☆日時:2021 年 11 月 18 日(木)15:00～16:00。☆場所:野菜ダイニング「菜宴」。☆出席者:三野、ジャメ、浅井、中辻、高松、菌田、杉谷。☆議題 1. 2021 年度会費納入額・会員数。2. 前回理事会(9/16)後の活動:第 148 回フランス・アラカルト(10/9)。3. 今後の行事:第 149 回フランス・アラカルト(1/22)、総会(2/11)、美術クラブ、シネクラブ。4. Mon Nara, Mon Nara 通信。5. その他:フランス総領事館イベントの告知など。6. 次回理事会:2022 年 1 月 20 日(木)15:00～16:30 「菜宴」。

後記 ☆Mon Nara 通信 12 月号をお届けします。☆コラムに書き足りなかったことを補足して書いておきます。フランス・アラカルトでコメントの際、三野会長から参考となる本を紹介いただいたので、さっそく図書館で借りて少し読んでみました。府川源一郎『消えた「最後の授業」』(大修館書店)と田中克彦『ことばと国家』(岩波新書)の二冊です。『消えた「最後の授業」』では、尾崎紅葉が初めて英語から重訳し、鈴木三重吉が子ども向きに翻案したり、原文からの翻訳が岩波文庫に収録されたり、また教科書に採用されるという日本での受容の経緯を辿り、戦前では国語を大切にし愛国心を醸成するという国策に利用され、占領期にはドイツとアメリカを重ねた書き方をするなど、それぞれの時代の特徴を指摘していました。それもすべてアルザス地方ではみんなフランス語を使っていると思いこんでいたため、アルザス語を常用していると知ったのは、1970 年代に入って初めて。教科書から消えるのに決定的だったのは、そのことを指摘した田中克彦『ことばと国家』が岩波新書に入って広く読まれるようになったからということです。『ことばと国家』で印象的だったのは、日本が朝鮮半島の人々に日本語を押しつけている最中に、国内では「国語愛」の教材として用いられていて、当時の朝鮮の人々の「国語愛」には思いも寄せなかったということです(杉)。

- ◆当協会では**会員を募集**しております。お申込み、お問合せは下記事務局まで。
- ◆Mon Nara 誌への投稿、とくに新鮮で多様な話題、直近のフランス情報などを歓迎します。誌面の都合でご相談のうえ表現を変えさせていただくことがあります。Mon Nara 2 月号は 1 月 31 日が原稿締切日です。
- ◆会員のみならず「Mon Nara」(2 月、6 月、10 月発行)、または「Mon Nara 通信」(4 月、8 月、12 月発行)に**チラシ同封を希望される方は**、1)内容がフランスに関わるもの、2)本人または代理人が発送作業に参加、の二つの条件を満たせば同封可能ですので、下記事務局までお問い合わせください。

Mon Nara 通信 2021 年 12 月 numéro 11

奈良日仏協会 Association Franco-Japonaise de Nara

HP : <http://www.afjn.jp> E-mail : nara.afj@gmail.com FAX : 0742-62-1741

〒630-8226 奈良市小西町 19 マリアテラスビル 2F 野菜ダイニング菜宴[郵便物のみ] 発行責任者:三野博司